

クラウド活用の最大化を提案「GV AMPP」

グラスバレー (GV) は社名ロゴと企業メッセージを刷新した。「WE LOVE LIVE」と、GV最初のスイッチャーから提供してきた「ライブ」技術を強調。さらに、ハードウェアベースからクラウドへの移行を促すクラウド型ライブ映像制作のSaaSプラットフォーム「GV AMPP (Agile Media Processing Platform)」を提案した。コロナ対応で加速した現場の制作スタッフ削減や、在宅でのリモートワーク、今後の変化にも対応できる柔軟性の高いソリューションを実現する「新たな自由」の提供を担う。

SaaSプラットフォームであるため、大規模な設備投資や償却管理が不要で、新しい機能

も自動的にリストに追加される。複雑なセットアップも不要で、オペレーター人数増減への柔軟な対応や、場所を選ばないリモートオペレーションは、これまでのハード機器の運搬や配置、再構成などの負担から解放してくれる。また、オペレーターの役割によりカスタマイズできるUI、例えばマルチビューワーのレイアウトも自由に設定できるなど使い勝手が格段にアップしている。

クラウドを安心して利用できるよう、運用するアプリケーションやフローを一目で把握するAMPP Dashboardや、ワークロードを一目で把握できるHealth Discoveryなどの対応ツールを提供する。eスポーツのOverwatchリ

グが2020年シーズンから採用、また欧州のEurosport社もいち早く動くなど、課題だった遅延にも対応した独自特許技術に信頼がある。

GVが提供するノンリニア編集ソフト「EDI US」はクラウド提案を始め、GV AMPPのAsset Managementと連携して展開を予定。使い慣れた環境で作業を続けられるメリットがある。必要なアプリケーションだけを必要なタイミングで起動・停止し、使用したサービスに対してのみ料金を支払うサブスクリプションモデルの提供はコスト負担までも新しくする。

(プレゼン者: グラスバレー株式会社 竹内克志、三輪信昭)

IP対応インカムからの新提案

Riedel Communications (以下、Riedel) は1987年にドイツで設立され、2015年に日本に拠点を設けている。ビデオ、オーディオ、およびインターカム (インターコミュニケーションシステム) とファイバーベースのネットワーク構築を世界の放送局やスポーツ、劇場、コンベンションなどで提供している。

Riedelのインカムは、世界で初めてST 2110-30に対応し、JT-NM認証を受けている。今回のIP PAVILIONで提供したワイヤレスインカム「Bolero」はST 2110-30、AES 67準拠するIP製品で、2017年から販売。これに合わせてRiedel本社は「IP Research」というセクションを設け、放送技術のIP化へ

の研究・開発を本格化している。海外で開催されるInteropやIP Showcaseのメンバーとなり、ベンダー同士のProof of Concept (PoC) などにも協力している。

IP PAVILION展示では、IP化によるインカムのパネル端末の機能拡張に注目が集まった。インカムの子機に加え、モニタリング用のスピーカーとしてステレオ対応する機能に驚きがあった。また、他社の制御システムのパネルとしても使用できる。例えば、ベースバンドSDIからIPベースのシステムに移行で、ネットワークインフラ統合管理・監視する「DataMiner」とも連携できる。

Riedelは、放送システムのIP化を一挙に進

めるのではなく、SDIの良さを生かしながらIP導入を放送局やケーブルテレビ局などとボトムアップ的に連携し、信号伝送の運用改善と効率化を支援していく。そのため、2019年にIPゲートウェイ「MediorNet IP」をラインナップに加えたことで、ビデオ・オーディオのSDI信号をIPネットワークにルーティングできるため、他メーカーとの相互運用性を用意している。

世界で最も信頼のあるインカムからIP化への移行を具体的に示しながら、ユーザーとともに進んでいく提案を用意している。まさに、「これぞIPの可能性を見る」だ。

(プレゼン者: Riedel Communications Japan 成田玄)